

インストール編

動作環境

対応 OS

Windows XP Home Edition ,XP Professional Edition SP1 以上

Windows 2003 Server ,Windows VISTA,Windows 7

ディスプレイ

1024 × 768 (XGA) 以上の解像度必須 256 色以上の表示 (小さいフォント) で使用

プリンター

Windows OS 対応の A4 以上が印刷可能なプリンター

バーコードラベルの印字にはレーザープリンターまたは RICOH の GELJET プリンター (きれいモード) を推奨。一般的なインクジェットプリンターでバーコードを印字すると経年劣化で読み取りができなくなることがあります。

利用者カードや多読賞状がカラーで印字可能なためカラープリンターを推奨します。

バーコードリーダー

キーボード (PS/2 等)、USB インターフェースで使用可能な機種

CODE39 および NW-7 読み取り可能なこと

バーコードラベル読み取り後、CR 付加設定を行うこと

NW7 スタートストップキャラクター 非送信設定

CODE39 スタート/ストップコード 非送信設定

ネットワーク

MARC ダウンロード機能にはインターネットの常時接続が必須です。

クライアントサーバー利用時 TCP/IP 接続

日書連 MARC 利用およびオプションのライブラリーサーチ利用にはインターネット接続が必須です

※インターネット:接続は http 通信です。Proxy サーバー経由では設定が必要な場合があります。
またコンテンツフィルタリング(有害ページ排除)設定により通信が出来ない場合がごくまれにあります。システム管理者にお問い合わせください。

バックアップ装置

50MB 以上保存可能な外部記憶装置必須(USB メモリーや MO ドライブ等)

動作環境 (OS WINDOWS XP の場合)

(1台の PC にサーバーソフト(データベース)とクライアントソフト両方インストールする)

CPU※ 最低 Celeron1GHz 以上 2GHz 以上推奨

メモリー スタンドアローン運用 最低 256MB 以上 推奨 1GB 以上

※注意 運用におけるユーザー権限について

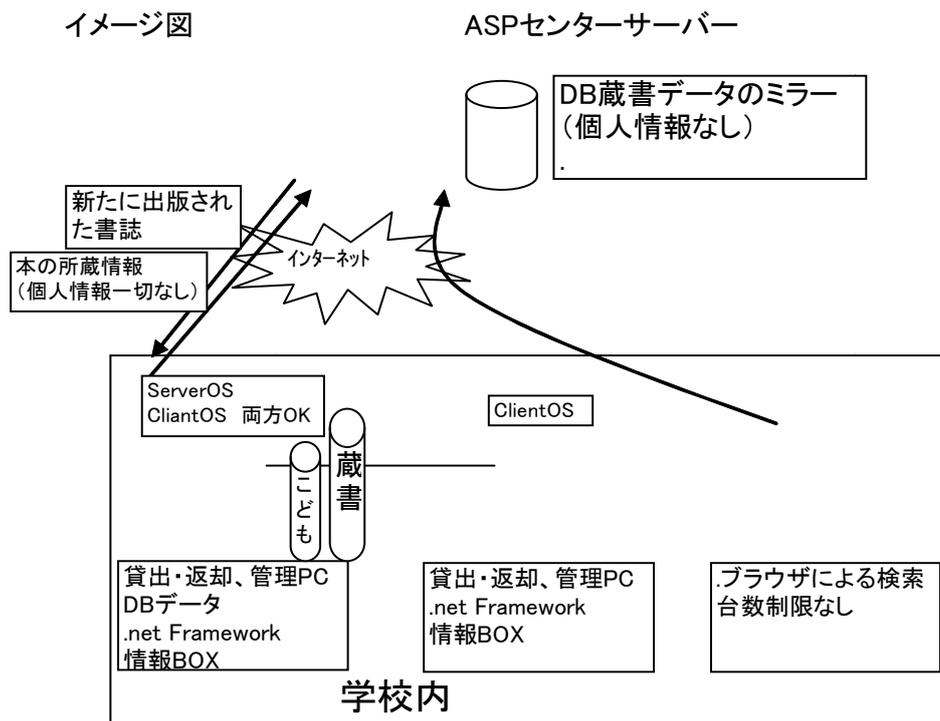
メモリーの有効利用が可能なことと、ソフトのネットワークバージョンアップの利便から特に十分なメモリーがない PC における運用では、ローカル管理者権限を与えての運用を強くおすすめします。制限ユーザーで利用してメモリーが少ない(256MB 程度)かつ利用の多い場合、運用に障害が起きる場合があります。

Vista の場合

動作環境 VISTA が快適に動作すること。特にメモリーは2GB 以上を強く推奨いたします。

制限事項 ユーザーアカウント制御(UAC)を無効にして運用してください。ローカルの管理者権限を持ったユーザーで運用してください。

本ソフトは帳票をインストールされている MS-Excel を利用して表示する機能を標準で装備しております。ただし、MS 社の制限で MS-Excel のバージョンは XP または 2003 に限らせていただきます。従って、保存形式は xls 形式で、Excel2007 標準の xlsx 形式には対応していません。MS-Excel は本ソフトには添付されていません。



システム間でのファイル利用/蔵書データテキスト読み込みについて

書店システム 本屋ツールで作成したテキストデータを読み込むことで、図書館では蔵書引き当ての必要がありません。

司書ツールでの引き当てデータも同様にテキストデータ読み込みが可能です。

運用形態の確認

情報 BOX は複数台のパソコンでネットワークを構築して運用することも、1台のパソコンで運用することもできます。有償オプションのライブラリーサーチを利用すると台数の制限なく Web ブラウザで検索ができます。

セットアップと起動

情報 BOX を起動するにはコンピュータにソフトをセットアップする必要があります。

ここではセットアップ接続テストの方法を解説したあと、情報 BOX を起動する方法について説明します。

重要なお注意

必ずそのコンピュータの管理者権限をもつユーザー(ローカル管理者)でログインしてください。瞬快等の環境復元ソフトが導入されている場合は必ずシステム管理者に事前に確認して、適切なユーザー、環境でソフトのインストールを行ってください。

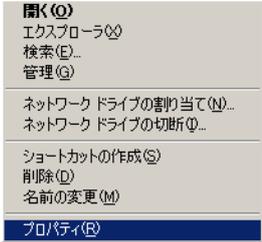
他に MSDE を利用したソフト、または MS-SQL Server2000 がインストールされている場合はインストールできません。教育システム サポート窓口へご相談下さい。

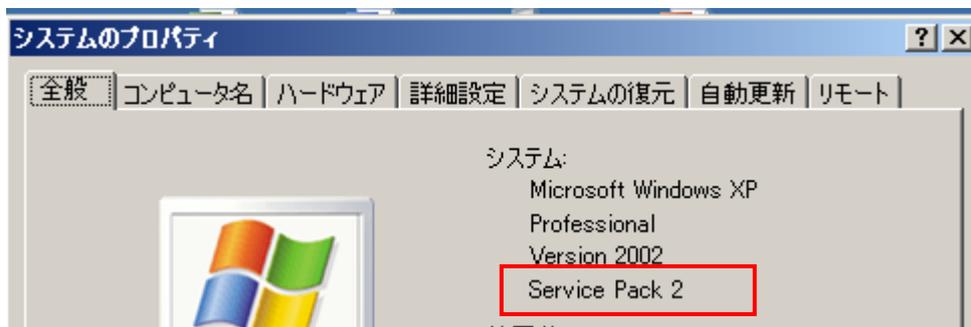
OS のアップデートが出来ていない PC ではインストールに失敗します。必ず Windows Update を行ってからインストールしてください。

Vista での通常運用はローカル PC の管理者権限をもつユーザーで行いかつ UAC が無効になっていることが必要です。

正常にインストールできないほとんどの原因は、OS のバージョンとセキュリティパッチの問題です。コンピュータの動作環境をよく確認してください。サーバーインストール作業は情報 BOX サーバーソフトのインストールの形態を取っていますが、おおむね MS-Windows の機能拡張です。OS が不調な PC での運用は計画を変更して別の PC をご用意いただくか、Windows のクリーンインストール(HDD フォーマットまで)を行ってください。CPU 速度よりもクリーンな OS とメモリー増量が安定した動作の必要条件です。

OS のバージョン確認方法


 デスクトップの **マイ コンピュータ** を右クリックして
 
 一番下のプロパティを選択して左クリックします。



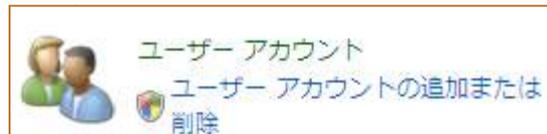
Windows XP の場合 Service Pack1 以降（例では ServicePack2 です。）

Vista の場合 2008/6/1 現在 特に OS のバージョンの指定はありません。

UAC を無効にする方法 VISTA BUSINESS での例



コントロールパネルから
を選ぶ。



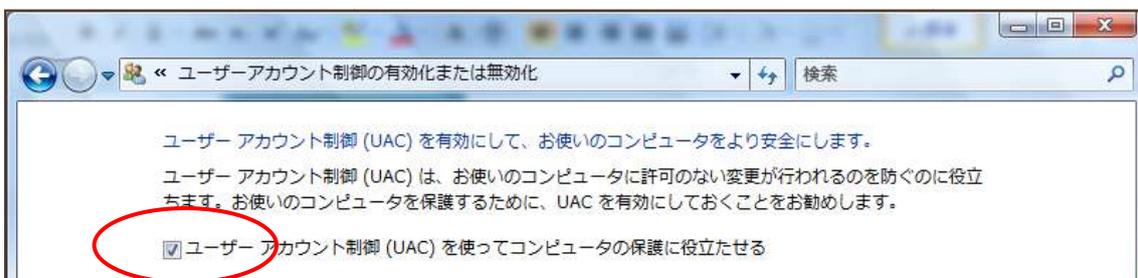
の [ユーザーアカウント]



さらに [ユーザーアカウント] をクリックする。



次に [ユーザーアカウント制御の有効化または無効化] をクリックします。



この画面でチェックがなければそのままキャンセルを、チェックがあれば外して [OK] を押して下さい。

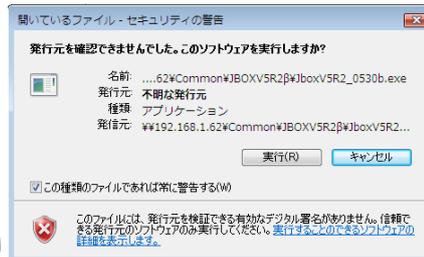
インストールの作業手順

例) OS が VISTA の場合ですが XP でもほぼ同様です。

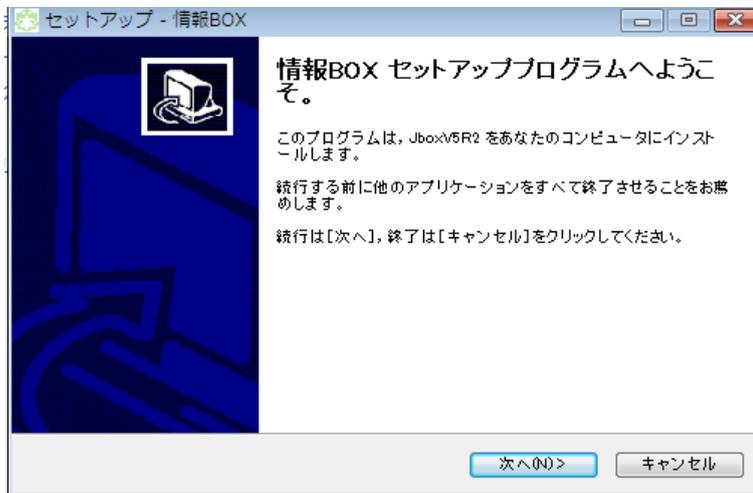
厳守してください

必ずローカルコンピュータ(インストールしようとするコンピュータ)における管理者権限があるユーザーでログオンしていることと、VISTA の場合はそのユーザーにおける UAC が無効になっていることを確認して下さい。その条件が満たされない場合は決してインストールを行わないで下さい。

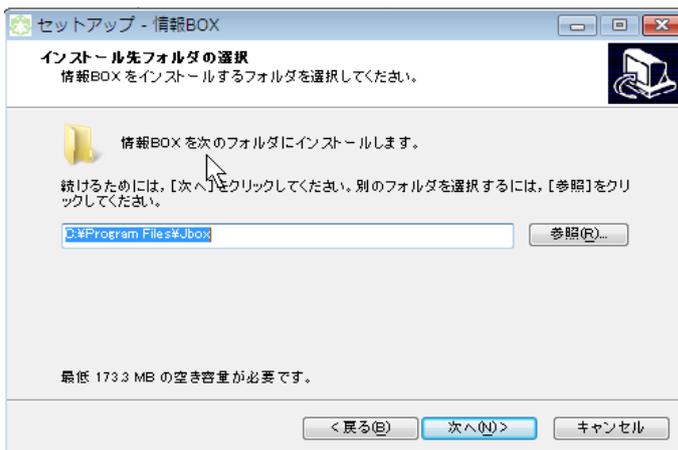
CD-ROMドライブに情報 BOX の CD を入れて、JboxV5R2_XX.exe (XX はリリース日付、.exe は表示されない場合があります) をダブルクリック等で実行します。



※セキュリティの設定により、この警告の画面が出る場合がありますが、問題ありませんのでそのまま継続するために「実行」をクリックします。すると「ようこそ」の画面が現れます。

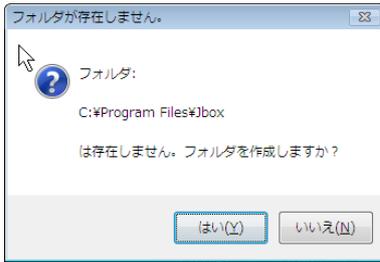


次へ をクリックします。

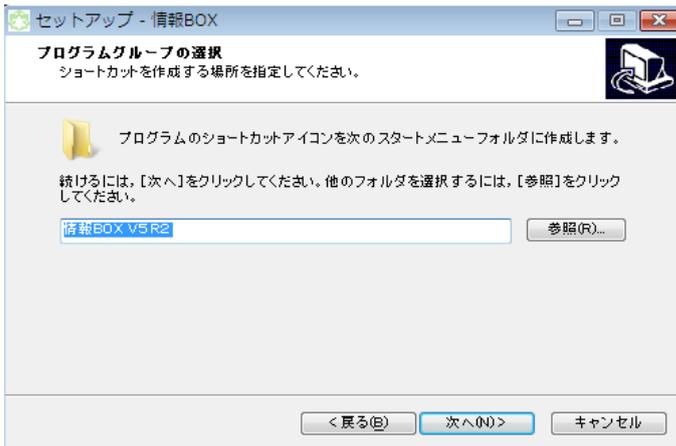


インストールフォルダを変更できます。

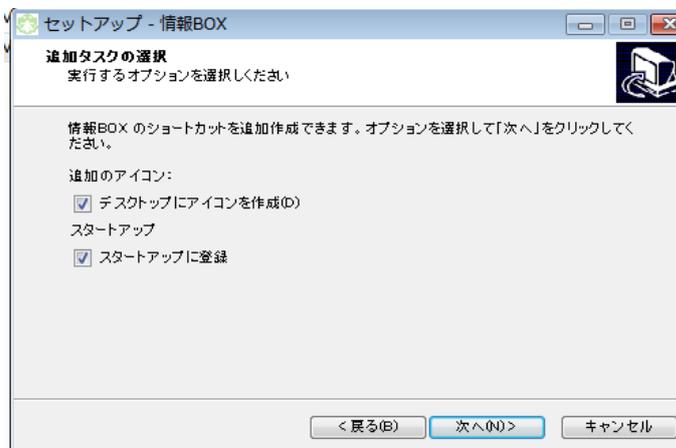
問題がなければ「次へ」をクリックします。空き容量や環境復元ソフトの影響に関しては、校内システム管理者にお問い合わせ下さい。



「はい」 をクリックして次へ進みます。



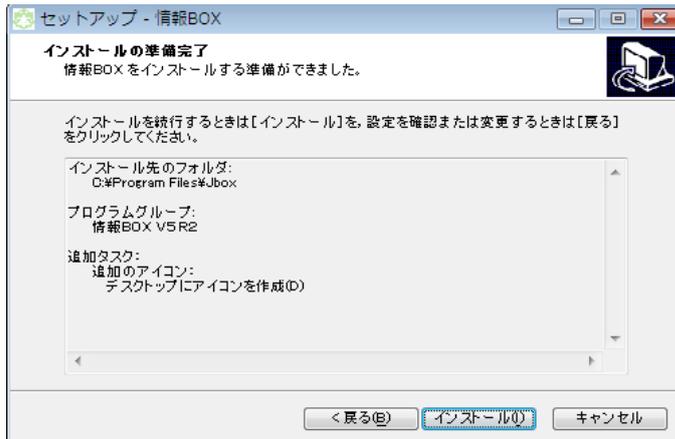
「はい」 をクリックして次へ進みます。



「はい」 をクリックして次へ進みます。

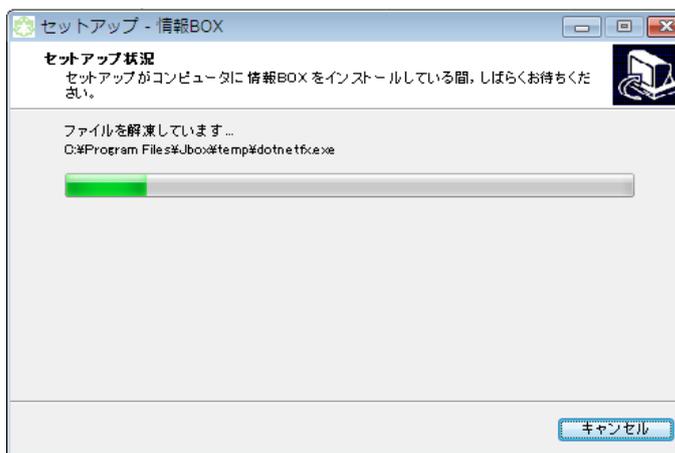
※「スタートアップに登録する」のチェックは原則外さずにインストールを継続してください。チェックを入れると Windows ログオン後、タスクバーの右端の常駐プログラム一覧に  マークが現れます。これが情報 BOX 運行管理プログラムで情報 BOX の運用を制御します。

非力なPCやもっぱら図書館業務以外で利用するPCで常駐型のプログラムによる不具合がある場合だけ、このチェックは外して下さい。



[インストール]をクリックして次へ進み

ます。



数分間インストールに時間がかかります

ます。



完了中という画面で [終了] をクリッ

クします。

これでインストールは完了です。

インストールの確認

正常にインストールされるとコントロールパネルのプログラムの追加と削除(XP の場合。VISTA ではプログラム)には一般的に以下の4項目が増えます。

 JboxV5R2	教育システム
 Microsoft .NET Framework 1.1	
 Microsoft .NET Framework 1.1 Japanese Language Pack	Microsoft
 Microsoft SQL Server Desktop Engine	Microsoft Corporation

ソフトインストール後これらが表示されていない場合は正常にインストールできていません。多くの場合、OS のバージョンとセキュリティパッチの問題です。コンピュータの動作環境をよく確認してください。ここまでの作業は情報BOX サーバーソフトのインストールの形態ですが、おおむね MS-Windows の機能拡張です。OS が不調な PC での運用は困難です。

情報 BOX を起動

情報 BOX を起動します。

必ず教育システム発行の使用許諾証を準備して図書館コード、パスワードがわかるようにしておいて下さい。セットアップ継続に必要です。



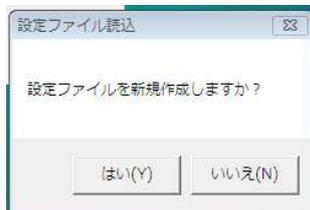
デスクトップ上の **Jbox** をクリックするか



[スタートボタン] - [すべてのプログラム] - [情報 BOXV5R2] - [jbox]をクリック

することで情報 BOX が起動します。

初回起動時だけ次の設定を行います。2回目からは現れません。



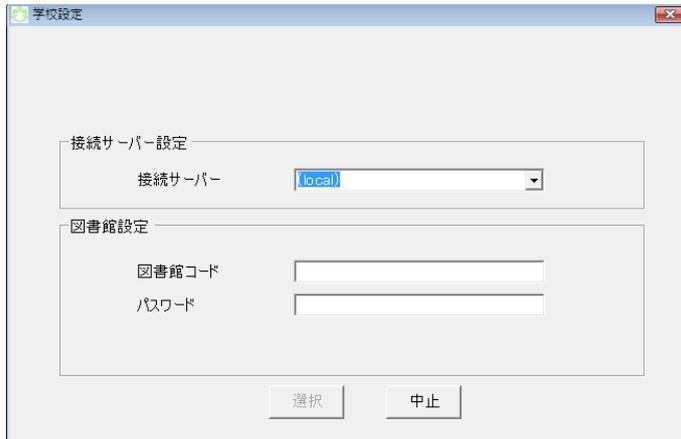
はい をクリックして続けます。

学校設定

ファイル更新画面が出ます。PC1台で貸出・返却を行う時、またはサーバー運用する場合のサーバー機においてはサーバー名が (local) になっていることを確認してください。

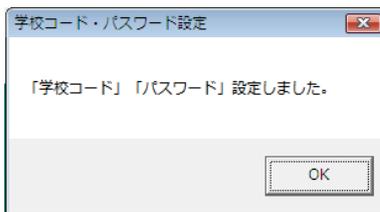
※貸出・返却を複数台で行う場合のクライアント機(データベースのないPC)の場合はサーバー名を (local) ではなくサーバーPC のホスト名または IP アドレスが表示されるのでそれに変更してください。

※まれにサーバー名が空白の場合があります。その時には localhost と入力して下さい。



次に 図書館設定に、弊社から提供された「使用許諾書」に記載された図書館コードを入力してください。ライセンス違反は決して許されませんが、たとえテストでも決して他の図書館コードを使用してインストールしないで下さい。

図書館コードとパスワードを入力し [選択] ボタンをクリックしてください。



OK ボタンをクリックします。

情報 BOX 運行管理プログラム

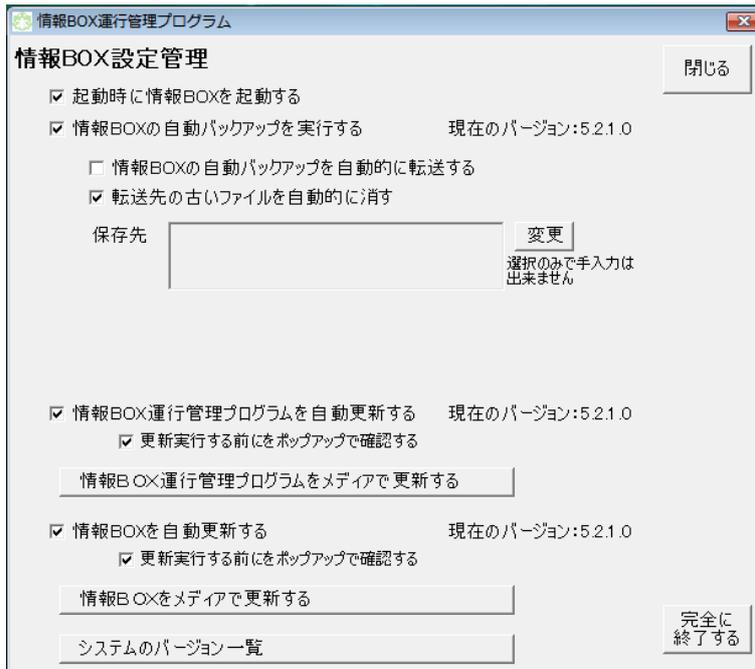
運行管理プログラム(ランチャー)は情報 BOX のバージョンアップや自動起動設定、バックアップといった業務を制御するプログラムです。

タスクバーの右端の常駐プログラム一覧に  マークが現れます。これが情報 BOX 運行管理プログラム(ランチャー)で情報 BOX の運用を司ります。このマーク上でマウスを右クリックすると



という画面がでます。

設定画面を開く を選んでクリックしてください。すると以下の画面が現れます



ログオンした時に情報BOXを自動的に起動したい

起動時に情報BOXを起動する にチェックを入れるとOSのログオン時に情報BOX

Ver5R2 が起動します。図書館で利用する場合はこの機能が便利です。

同様に自動起動させたくない場合はチェックを外してください。

自動バックアップについて

Ver5R2 から実装の新機能です。情報 BOX Ver5R2 起動時に自動的にバックアップを作成し、そのバックアップファイルを保存先に指定したフォルダに転送(コピー)する機能を持ちます。

<input checked="" type="checkbox"/> 情報BOXの自動バックアップを実行する		現在のバージョン:5.2.1.0
<input type="checkbox"/> 情報BOXの自動バックアップを自動的に転送する <input checked="" type="checkbox"/> 転送先の古いファイルを自動的に消す		
保存先	<input type="text"/>	<input type="button" value="変更"/> <small>選択のみで手入力は出来ません</small>

PC 本体が故障した場合、ローカルドライブ(C または D)に転送(保存)してあっても、無意味です。一般的な保存先にはリムーバブルディスクやサーバーのネットワークドライブを想定しております。

保存先の設定はエクスプローラーでの設定で行い UNC パスやドライブレターの直接入力はできません。

また、認証済みのドライブへの保存ですから、予め ID PW で保存場所への書き込み権限があることを前提とします。

転送先の古いファイルを消すにチェックを入れると、以下のファイルを自動的に削除するので、そのドライブまたはメディアが一杯になることを防止できます。

※自動バックアップに関するご注意

この自動バックアップはあくまでトラブル時の復旧作業用の補助機能です。自動バックアップに失敗した際の対策は取られていません。各年度や学期での**手動バックアップアップは必ず実施**して下さい。

自動バックアップのタイミングに関しては動作中に自動的に行われ、バックアップタイミングの調整はできません。また、自動バックアップは起動後に実行され、自動転送は10分後に実行されます。

短時間20分以下の起動時間ではバックアップファイルの作成や自動転送は行われません。

ご注意ください。

バックアップファイルの自動転送ルール

バックアップファイルの自動転送はランチャー(情報 BOX 運行管理プログラム)が常駐している場合にのみ動作します。定期的に保存先を監視して「今日作成したバックアップファイル」の転送を試みます。リムーバブルディスクを指定した場合は、必ずメディアにアクセスできる状態にしたままでお使い頂くことをお勧めします。またメディアを取り外す場合は、必ず「メディアの取り扱い説明書に指定された方法」で取り外してください。USB メモリ等でバックアップ処理を行っている最中に抜き取った場合は、USB メモリのデータを喪失させる場合があります。ご注意ください。

削除されるファイルのルール

削除はシステムが自動的に付けたファイルが対象です。

バックアップファイル名は「Jbox_yyyymmddHHMMss.jzp」となっており「yyymmdd」が年月日で 2008/7/1 であれば 20080701 の様になります。「HHMMss」は時刻で 24 時間表示になっています。

自動削除は

- 6ヶ月以上前に作られたバックアップファイル
- 同じ月の直近7日以外のバックアップファイル

が対象になります。結果としては6ヶ月以内の毎月の最後に起動した一週間分が残ることになります。ただし、起動時にバックアップファイルを作成しますので毎日起動しない場合はファイルの保存数が減少します。

ログイン画面

データベースと正しく接続ができると次のログイン画面が出ます。

管理者権限のあるパスワードは初期値で「1」山羊座マークをクリックして OK を押します。

ログインできることを確認してください。初期値では、「1」は管理者、「2」は司書、「3」は先生、「4」は図書委員、「5」は検索用端末、「6」は貸出用端末の操作権限で起動します。



※パスワードの入力はマウスで行います。キーボード テンキーで「0～9」の数字と「Ok(Enter)」が使えます。カーソルキーや削除キーは使えませんのでご注意ください。

なお、起動時にパスワードを入力させずに、自動的に貸出画面を表示させたり、検索画面を表示させて運用することも可能です。詳しくは、導入時設定編をご覧ください。